



「継続は力なり」



吉野川市立鴨島小学校
校長室だより 第33号
令和5年12月1日

学校教育目標：自他の生命と人権を尊重し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

年の瀬を迎えて～残り15日間の登校日をより確かなものに～

師走(12月)になりました。早いもので大晦日、お正月まであと1か月。そして、「卯：うさぎ」から「辰：たつ」へとバトンタッチが行われます。

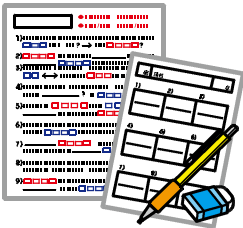
さて、「実りの秋」、「充実の2学期」を目指して取り組んでまいりましたが、先日の「鴨島地区人権フェスティバル」での子供たちの発表ぶりを見て、確かな成長を遂げてきていることを実感しました。これも保護者の皆様、地域の方々のお陰であります。これまでの御支援に改めて感謝を申し上げます。



終業式まであと15日。一日一日を大切に、今年の締めくくりに向け一生懸命がんばります！

「ほめる」と「励ます」のバランス感覚をもってやる気を促す

ある日、我が子が算数のテストで100点を取って、喜んで帰ってきたとします。その子供の喜びの声を聞いたとき、皆さんは、どのように声をかけるでしょうか！？



「わあー、すごい！よくがんばったね」多くの方は、おそらくこのように「ほめる」のではないのでしょうか。しかし、もしかしたら、その後に次のような言葉も返してしまうことはないのでしょうか。「じゃあ、がんばって次は国語でも100点をとろうね！」

また、国語の成績が上がったことが嬉しくて、終業式の日帰宅するや否や通知表を見せにきた我が子に対し、「すごい、やればできるじゃないか！」とほめたあとに、「じゃあ、3学期は算数もがんばろうね。」などと言ってしまうこともあるかも知れません。

あるいは、ある夏の日、子供がプールの横(10m程度)を初めて泳ぐことができ飛ぶように帰ってきた時に「よくがんばったね！」とほめたあとに「じゃあ、今度は25mをめざしてがんばろうね！」と言ってしまうのも同様です。



この時、子供は、最初に感じた「ほめられた！」という気持ちが一気に半減し、がんばれ！と「励まされた」という気持ちに変容してしまうそうです。よって、こういった声かけは上手に演出することが大事になってきます。

そこで、「ほめる」時は、その後について続けてしまいがちな「励ましの言葉」をぐっと我慢して、もう思いっきりほめてあげることが大切です。もちろん、むやみにほめればよいというわけではなく、「ほめる内容とタイミング」が重要です。内容もタイミングも、誤るとウソっぽくなってしまいます。

子供が何らかの努力をした時、成果をあげた時、あるいは子供に何らかの進歩や成長が見られた時、そして人間としてすばらしい言動をした時etc・・・。こんな時は、つい言ってしまうがちな「励まし」の一言は付けずに、とにかく思いっきり「ほめて」あげたいものですね。

子供のやる気を促すちょっとした言葉かけを、我々大人が大切にしたいですね。

～第2学期のがんばりや成長を振り返って～

第2学期は、「心つながる運動会」、「鴨島地区人権フェスティバル」と2大イベントが行われ、たくさんの方々に子供たちのがんばりや成長を見ていただきました。子供たちはもとより教職員もやりがいや達成感を深めることができました。大変お世話になりました。



「校長室・学年」だよりは、HPではカラーで見ることができます→

鴨小QRコード